

We modulate your business to success!

modulat

第15期(2014年3月期) 決算説明会

2014/05/23

modulat

モジュレ株式会社 (JASDAQ : 3043)

<http://www.modulat.com/>

目次

◇ 2014年03月期の総括	・・・ 3p
◇ 2015年03月期の見通し	・・・ 4p
◇ 財務諸表：損益計算書	・・・ 5p
◇ 財務諸表：貸借対照表	・・・ 6p
◇ 財務諸表：キャッシュ・フロー計算書	・・・ 7p
◇ 売上高の推移	・・・ 8p
◇ 売上総損益の推移	・・・ 9p
◇ 営業損益の推移	・・・10p
◇ 経常損益の推移	・・・11p
◇ 当期純損益の推移	・・・12p
◇ その他指標の推移	・・・13p
◇ 中期経営計画について	・・・14p
◇ お問い合わせ	・・・15p

2014年03月期の総括

期首予想を達成。新規投資も行いつつ、増収増益

- ・堅実に実績を積み重ね、4期連続の増収、5期連続の増益。
- ・売上総利益、営業利益、経常利益、純利益は過去最高額を計上。
- ・営業利益率は前期から1.2ポイント上昇。収益構造の改善を着実に推進。

商品売上が復調、新サービス開始

- ・商品売上は緩やかな改善傾向を見せ、前期比39.1%増を計上して順調。
- ・ITサービスは横ばい傾向だが、多くの新規顧客(計44社。内大手17社)を獲得。
- ・下期から開始した新サービス関連で11社の新規顧客を獲得。

ガバナンス強化を継続、増配

- ・数年掛けて強化してきた経営体制ガバナンスを維持継続。
- ・将来に向け、若年層の採用活動及び育成活動の強化を開始。
- ・純資産22%増加、営業C/Fは4期連続プラス。増配(期首予測と同額)予定。

2015年03月期の見通し

堅実な成長を堅持しつつ、新サービスも収益の柱へ

- ・マーケットニーズ拡大を背景にした堅実な成長に、新サービスでの拡大を付加する。
- ・ITサービスの長期化、安定化、大型化を加速。将来の継続大型案件の獲得を目指す。
- ・純損益1億円超へ。5期連続の増収、6期連続の増益を目指す。

スマートデバイス対応の拡大、新ITサービスの拡大

- ・既存ITサービスは日本企業のスマートデバイス元年として拡大計画。
- ・新ITサービスは、引き合い多く、継続的な利益貢献できる状態を確立する。
- ・自社サービス開発の専任部門を設置。高い収益性のサービスの早期リリースを目指す。

強化したガバナンスとベンチャーらしさの共存

- ・役会決議における社外取締役の権限強化、新役員の選任などガバナンス強化を継続。
- ・自由な労務環境構築をさらに加速させ、ベンチャーらしさやスピード感も加速。
- ・経営基盤と財務の強化を継続。継続して利益計上し、安定した配当を維持。

財務諸表：損益計算書

(百万円)

	13/03期			14/03期			15/03期	
	実績	対前年比		実績	対前年比		予測	対前年比
売上高	1,793	118.7%	⇒	2,015	112.4%	⇒	2,100	104.2%
ITサービス	1,214	116.7%		1,209	99.6%		1,231	101.8%
商品	579	123.0%		805	139.1%		868	107.9%
売上総利益	465	124.3%		502	107.9%		551	109.8%
ITサービス	374	117.9%		362	96.9%		391	108.0%
商品	91	160.0%		139	153.0%		159	114.4%
販管費	361	125.0%		361	100.2%		391	108.3%
営業損益	104	121.7%		140	134.5%		160	113.7%
経常損益	187	212.8%		217	115.9%		160	73.7%
当期純損益	88	121.6%		98	111.2%		102	103.6%

- ◆ 商品売上が復調傾向：IT投資は緩やかな改善傾向。来期も堅実な成長を予測。
- ◆ コスト適正化：販管費を適正にコントロールした結果、前期とほぼ同額。販管費率は20.1%(13/03期)→17.9%(14/03期)に低下。来期も適正コストを維持して営業利益増。
- ◆ 高利益体質へ：営業利益率の更なる向上と純損益1億円超を目指す。

財務諸表：貸借対照表

(百万円)

	13/03期		14/03期	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	531	42.7	925	57.0
現預金	163	13.1	291	24.1
売掛金	177	14.3	308	18.9
たな卸資産*	128	10.3	154	9.5
その他	61	5.0	70	4.6
固定資産	713	57.3	703	43.0
有形固定資産	348	28.0	277	17.1
(減価償却累計額)*	-459		-539	
無形固定資産	80	6.5	251	15.5
投資その他の資産	284	22.8	173	10.4
総資産	1,244	100.0	1,628	100.0

	13/03期		14/03期	
	金額	構成比	金額	構成比
流動負債	706	56.8	979	60.1
買掛金	145	11.7	238	14.7
短期及び1年内	257	20.7	431	26.5
前受金	181	14.6	181	11.2
その他	122	9.8	128	7.9
固定負債	159	12.8	188	11.6
負債合計	866	69.6	1,168	71.7
純資産	377	30.4	460	28.3
資本金・資本剰余金	285	23.0	285	17.6
利益剰余金 他	92	7.4	174	10.7
負債純資産 合計	1,244	100.0	1,628	100.0

*たな卸資産には、リース投資資産を含む。 *減価償却累計額には、減損損失累計額を含む。

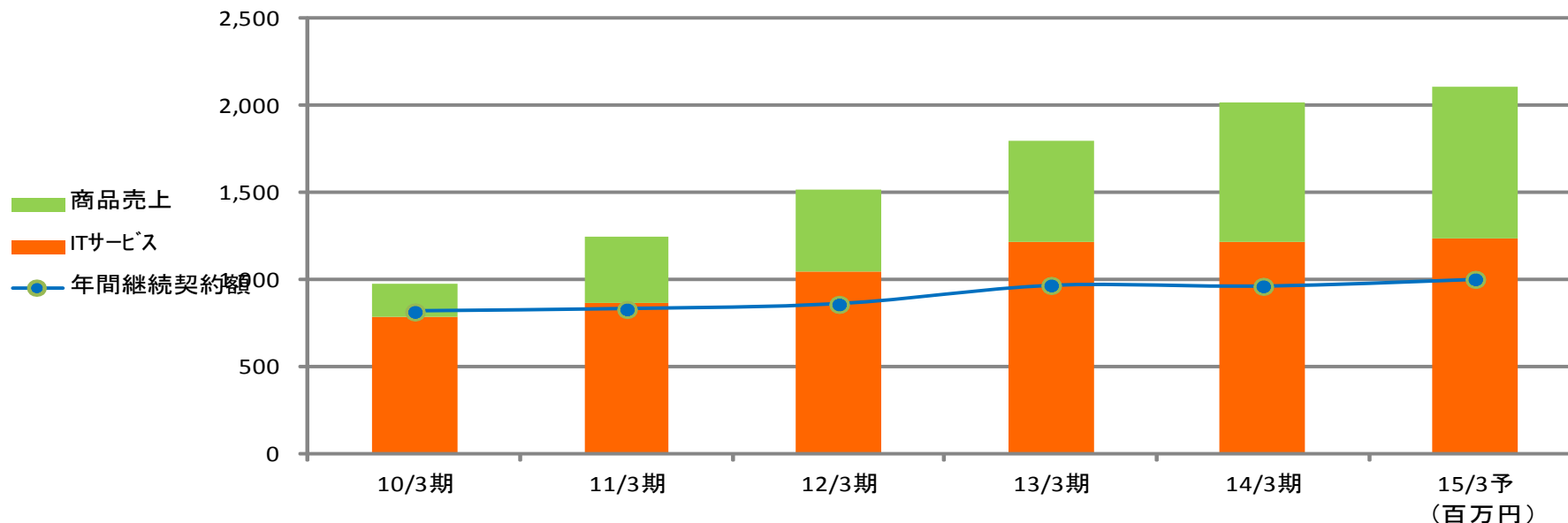
- ◆ 長期及び短期借入による現預金の増加、売掛金の増により流動資産が増加。
 - ◆ 無形固定資産は増だが、貸付金の回収、保険積立金の減等により、固定資産は微減。
 - ◆ 当期純利益の計上によって利益剰余金が増加し、純資産が増加。
- 前事業年度より配当を再開。株主の皆様への利益還元は重要課題のひとつ。

財務諸表：キャッシュフロー計算書

区 分	(百万円)	
	13/03期	14/03期
営業キャッシュ・フロー	114	155
投資キャッシュ・フロー	56	△ 107
財務キャッシュ・フロー	△ 88	180
現金及び現金同等物の期末残高	163	391

- ◆ 営業キャッシュ・フロー : 税引前当期純利益の計上、仕入債務の増加等により獲得
- ◆ 投資キャッシュ・フロー : 有形および無形固定資産の取得等により使用
- ◆ 財務キャッシュ・フロー : 短期借入れおよび長期借入れにより獲得

売上高の推移



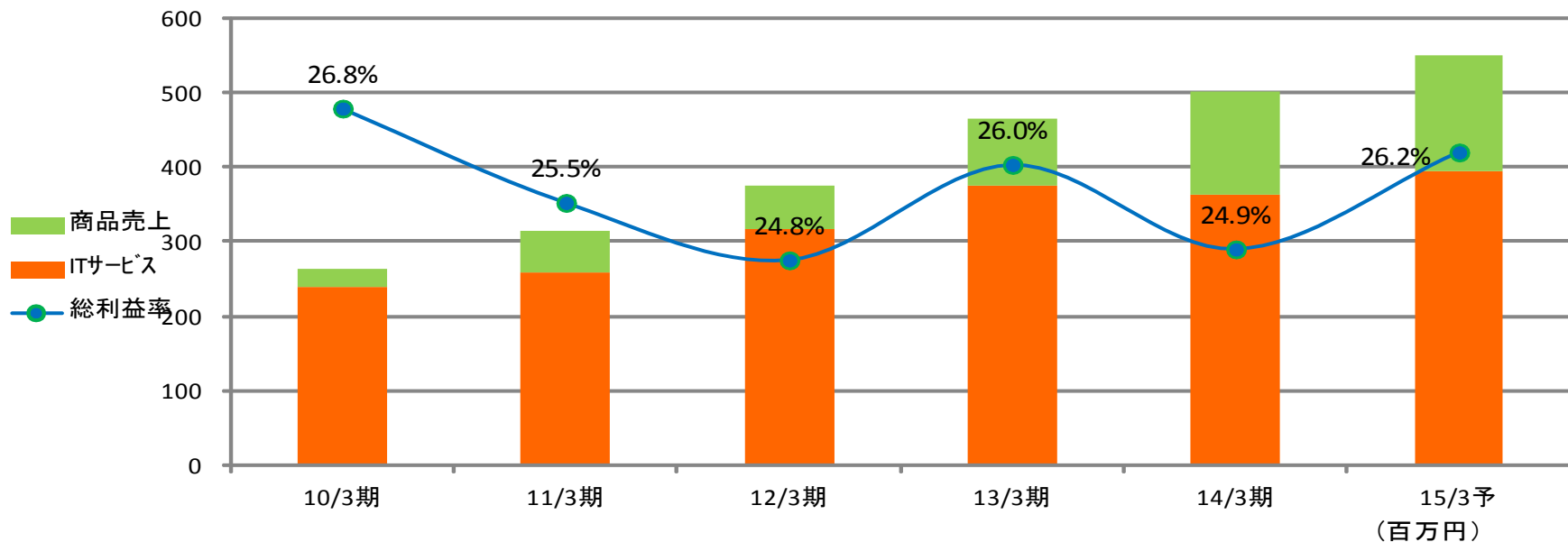
合計	978	1,239	1,511	1,793	2,015	2,100
	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3予
ITサービス	785	858	1,040	1,214	1,209	1,231
商品売上	192	381	470	579	805	868

年間継続契約額 813 827 856 965 960 1,000

*10/3期は、決算期変更により10ヶ月決算となっております。

- ◆ 14/3期 : ITサービスは横ばい。商品売上は、大型調達案件等により増加。
- ◆ 15/3期 : ITサービスは堅実に増加計画。商品売上も、回復傾向が続く予測。

売上総損益の推移

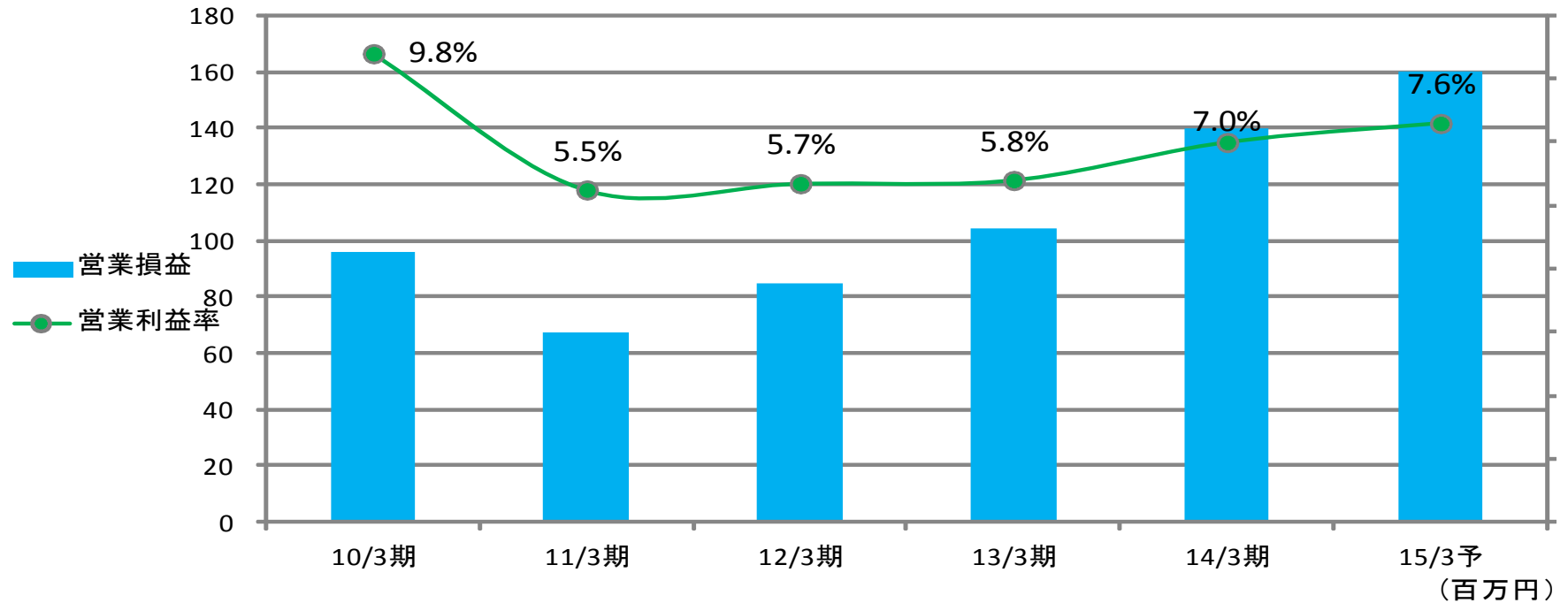


合計	284	262	315	374	502	551
	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3予
ITサービス	239	259	317	374	362	395
商品売上	23	55	57	91	139	155
総利益率	26.8%	25.5%	24.8%	26.0%	24.9%	26.2%

*10/3期は、決算期変更により10ヶ月決算となっております。

- ◆ 14/3期 : ITサービスの比率は72.2%。過去最高の総利益を記録。
- ◆ 15/3期 : ITサービスの比率は71.8%で、引き続き収益の柱として成長させる。

営業損益の推移

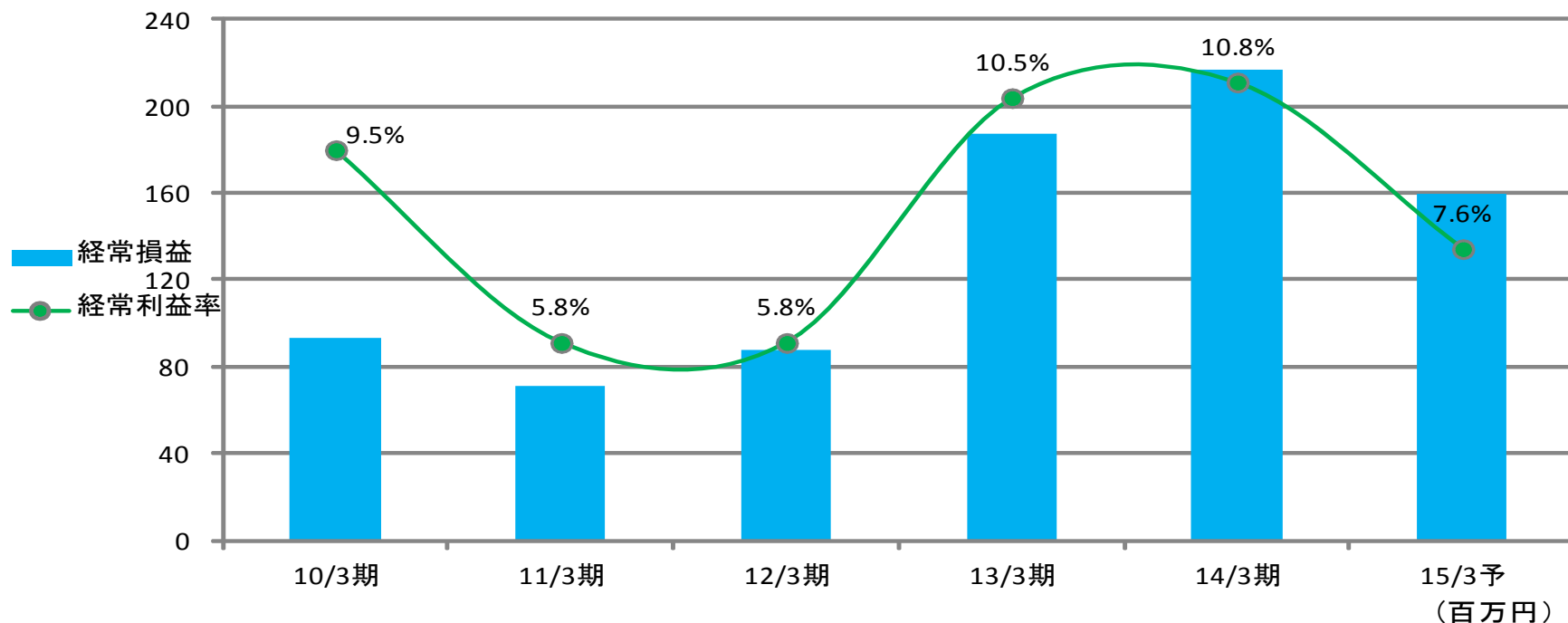


	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3予
営業損益	96	67	85	104	140	160
営業利益率	9.8%	5.5%	5.7%	5.8%	7.0%	7.6%

*10/3期は、決算期変更により10ヶ月決算となっております。

- ◆ 14/3期 : 販管費はほぼ前期並み。営業利益率の向上に貢献。過去最高の営業利益。
- ◆ 15/3期 : 引続き適正コストを維持し、営業利益増を図る。

経常損益の推移

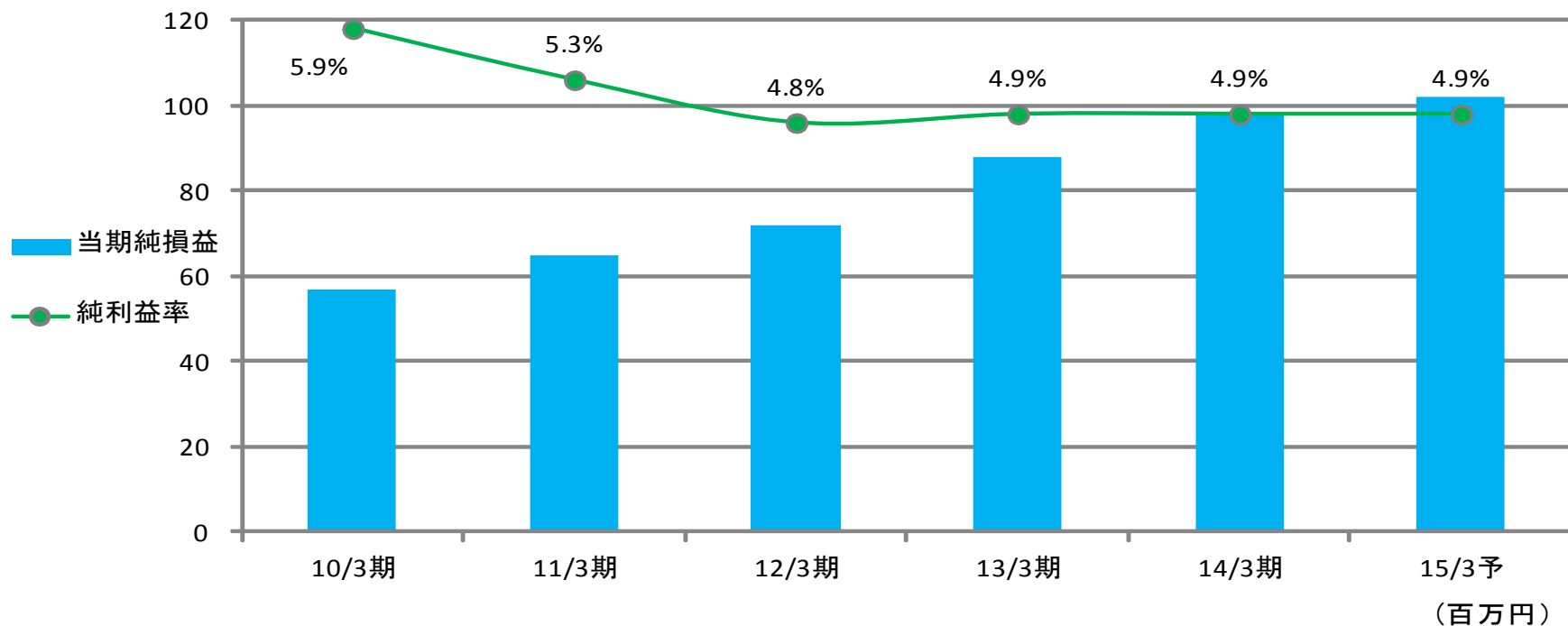


	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3予
経常損益	93	71	88	187	217	160
経常利益率	9.5%	5.8%	5.8%	10.5%	10.8%	7.6%

*10/3期は、決算期変更により10ヶ月決算となっております。

- ◆ 14/3期 : 貸倒引当金戻入により、経常利益増。過去最高の経常利益。
- ◆ 15/3期 : 例外的な営業外収益は見込まず、営業利益と同額を予測。

当期純損益の推移



	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3予
当期純損益	57	65	72	88	98	102
純利益率	5.9%	5.3%	4.8%	4.9%	4.9%	4.9%

*10/3期は、決算期変更により10ヶ月決算となっております。

- ◆ 14/3期 : 経常利益の増加により、当期純利益も過去最高を記録。
- ◆ 15/3期 : 当期純利益100百万円超を目指し、堅実な成長を継続。

その他指標の推移

	06/5期	07/5期	08/5期	09/5期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3予
顧客数(社)	35	51	69	69	67	56	68	89	112	135
対前年	25.0%	45.7%	35.3%	0.0%	-2.9%	-16.4%	21.4%	30.9%	25.8%	20.5%
年間継続 契約額(百万円)	343	558	663	771	813	827	856	965	960	1,000
対前年	32.9%	62.7%	18.8%	16.3%	5.4%	1.7%	3.5%	12.7%	-0.5%	4.2%
社員数(人)	36	52	50	41	41	39	56	62	64	70
対前年	12.5%	44.4%	-3.8%	-18.0%	0.0%	-4.9%	43.6%	10.7%	3.2%	9.4%
配当性向	16.4%	24.8%	—	—	—	—	—	25.0%	25.0%	24.2%

・08/5期,09/5期の数値は、決算訂正後の数値を記載しております。

- ◆ “顧客数”は、新規顧客を獲得して23社純増。そのうち、継続契約ありの顧客は2社増。15/3期は、前期開始の新サービスを推進し、23社純増計画。
- ◆ “年間継続契約額”は、特定顧客の経営体制変更によるサービス範囲縮小等により横ばい。15/3期は、10億円超を目指す。
- ◆ 社員数は、予定通りエンジニアを中心に増員実施済み。15/3期も適正に増員予定。
- ◆ 期首予想通りの配当を実施。今後も配当性向25%程度を基本に更に向上を目指す。

中期経営計画について

背景と概要

- ・マーケットは拡大傾向と認識→当社基本戦略は維持→日本発の独自性も必要。
- ・“難しく重要なIT”と“簡易に多用するIT”を適切に組み合わせて、IT投資効果を高める。
- ・新しい経営陣、IT業界に詳しい社外取締役、社外取締役の権限強化も継続拡大。

個々のサービスと経営目標数字

- ・既存ITサービスは年率11%の堅実な成長を目標に、更なる加速を目指す。
- ・新しいITサービスを加速させ、数年で既存ITサービスとの両輪に・・・その先へ。
- ・結果、3年後に売上28億円(前期比39%増)、営業損益2.7億円(前期比92%増)。

事業拡大の為のサービスバランスの必要性

“簡易に多用するIT”で、顧客基盤を広げる仕組み、適正価格で提供できる仕組み、を当社の競争力として、規模面でも片輪に育てる事で、現状の“難しく重要なIT”との営業面、技術面、人材面での相乗効果が高く現れ、事業基盤が大きく拡大する。

お問い合わせ

【 I R 窓 口 】

ストラテジック プランニング サービス

E - mail : ir@modulat.com

Tel : 03-3454-2061

Fax : 03-3454-2062

<http://www.modulat.com/>



<本資料お取扱い上のご注意>

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。